

Glocal Tenri



11

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.20 No.11 November 2019

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
先人のすがたを追って
／堀内みどり..... 1
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (37)
「おさしづ」第4巻における個人の身上・事情と「道」
／澤井治郎..... 2
- ・ 日本語教育と海外伝道 (16)
日本語教育での教授法について③
／大内泰夫..... 3
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (14)
意志から意志へ—シュヴァイツァーとキルケゴールにおける宗教的真理
／金子 昭..... 4
- ・ 遺跡からのメッセージ (51)
弥生時代を再考する ⑤ 紫雲上山遺跡と弥生時代の戦争
／桑原久男..... 5
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ関係
試論 (29)
フルベール・ユール—初代大統領②
／森 洋明..... 6
- ・ 天理参考館から (18)
即位式にまつわる資料から (2) 「女性の装束」
／幡鎌真理..... 7
- ・ ニューヨーク通信 (3)
文化協会と人材育成
／福井陽一..... 8
- ・ 思案・試案・私案
天大生の SDGs に関する意識調査②
／佐藤孝則..... 9
- ・ 思案・試案・私案
「碑」の字表記問題再考 (3)
／八木三郎..... 10
- ・ 2019 年度公開教学講座要旨：『逸話篇』に学ぶ (5)
第4講：58「今日は、河内から」
／尾上貴行..... 11
- ・ おやさと研究所ニュース..... 12
セネガルでのイスラーム共同調査 (澤井真) / 2019 年度公開教学講座の案内 / 『グローカル天理』年間購読のご案内

巻頭言

先人のすがたを追って

おやさと研究所主任 堀内みどり Midori Horiuchi

8月のある土曜日、高野友治先生の多くの蔵書がおやさと研究所に寄贈されました。天理大学に在学中に先生の講義を受講したのは、はるか昔のことですが、とても懐かしい想いがしました。高野先生は、教祖の教えを伝えた先人たちを追って、全国を調査されました。どのようにして、どの教えが、どんな人たちによって、人びとへと伝えられていったのか。その調査の結果は、『天理教伝道史』全8巻として結実しています。その前後にも調査・研究の成果は、折に触れ発表されてきました。

研究所には、このような天理教の伝道を考えるとき、直接的あるいは間接的に関わる資料や書籍、また参考となるものを収集・活用・発表するという活動もあります。研究所を長らく導かれた丸川仁夫先生の蔵書は膨大でした。その内容は多岐にわたりましたが、主たるものは日本だけでなく、世界の人びとの暮らしや文化を理解するためのもの、考え方・思考を考察するためのものなどでした。美術書も多く収集されていました。各地の博物館や美術館の図録、展覧会などの図録、祭り・習俗に関わるものもありました。『伝道宗教の展開と変容』『伝道学概論』(おやさと研究所伝道参考シリーズII [1988年] およびIV [1991年]) では、こうした資料をもとに「伝道学」が広く考察されました。

また、井上昭夫所長時代に、現代という時代に特有の課題や天理ならではの研究を推進すべく「天理自然・人間環境学研究室」「天理総合人間学研究室」「天理ジェンダー・女性学研究室」「天理スポーツ・オリンピック研究室」(2012年に体育学

部に移管)「天理国連・平和学研究室」(現在は閉室)が開設されました。

また、伝道史料室では、史料を収集する一方で、たとえば、「伝道フォーラム」を開催し、海外伝道の先人の足跡を記録し、次代へと繋がるものとは何なのかを模索し続けています。そうした成果の一部は『グローカル天理』『おやさと研究所年報』上で報告してきました。また、開催した伝道フォーラムや現地調査などの結果をまとめ、『戦前・戦中の中国伝道(1)(2)(3)』(上海、華北および青島・天津・北京・保定・杭州の各地域が対象。発刊年は順に2003年、2008年、2009年)や『コンゴ布教40周年記念 二代真柱とコンゴ布教—異文化伝道と海外布教—』(2001年。コンゴ伝道については他に現況報告など2冊の報告書を発刊)として、出版しています。

「おさしづ」では、

さあをやの道を通りながら、をやの道の理が分からん。古き道があるから新しい道がある。古き道はをや、新しい道は子という。さあへだんへに新しい道を通ろうとするで、古き道が忘れる。よう聞き分け。古き道があるで新し道という。古き道は埋めて了う。(明治22年10月9日)とされています。

“古い道”の探求とともに、「さまざまな文化、文明の特色を認識し、その違いを尊重しながら、互いに補い合いたすけ合っていく道を、理論と実践の両面から探求する」(建学の精神)ことによって“実践的”教学の構築に携わるのは、研究所の務めといえるのではないかと考えているところです。